

# 埼玉から見た日露戦争

平成22年11月2日(火)～23年2月13日(日)

当館では県内外の方々から御寄贈・御寄託いただいた古文書や明治以降の県行政文書、地図など、約100万点を収蔵し広くご利用いただいております。

今回は、明治37年(1904)から翌年にかけてロシアとの間で起きた日露戦争に関わる資料を紹介します。この戦争は、大国ロシアに勝利したことで世界に衝撃を与えるとともに、その後の日本のあり方を決定づける出来事でした。

文書館には、戦地からの書簡類や出版物をはじめ、戦費の調達や徴兵に関する行政文書など、多くの資料があります。これらの資料を通して当時の県民生活の一端を紹介します。

平成22年11月 埼玉県立文書館

## 1 日露戦争と埼玉

日露戦争は、明治37年(1904)2月10日にロシアに対して宣戦布告して戦端が開かれ、翌38年9月5日、ポーツマス講和条約によって終結するまで、1年7か月間に及びました。明治27・28年の日清戦争とは比較にならないほどの規模で戦われ、投じられた戦費は約20億円、当時の予算の約7倍でした。動員兵力は108万人、このうち戦没者が8万人を上回ったほか、傷病者も39万人あまりにのぼりました。

この日露戦争は、初めて国民を広範に巻き込んだ近代戦争の典型でした。埼玉県からの動員は、22,254人で、戦病死者は2,053人にのぼりました。

明治三十七八年役死者数・明治三十七八年役戦病死者遺族ノ状態

【明5001】

郡	北	南	大	尾	秩	比	八	北	明
郷	郷	郷	郷	郷	郷	郷	郷	郷	治
計	計	計	計	計	計	計	計	計	三
一六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
一七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
一八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
一九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
九九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
一〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七

郡	北	南	大	尾	秩	比	八	北	明
郷	郷	郷	郷	郷	郷	郷	郷	郷	治
計	計	計	計	計	計	計	計	計	三
二四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
二九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
三九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
四九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
五九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
六九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七〇	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七二	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七三	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七四	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七五	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七六	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七七	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七八	一	一	一	一	一	一	一	一	七
七九	一	一	一	一	一	一	一	一	七
八〇	一	一							

日露戦役出征名簿  
(近衛歩兵第4連隊第4中隊)

【橋本明氏収集529】

開戦とともに、国では、明治37年9月、徴兵令を改正して予備、後備役などの兵役期間を延長し大量の動員をはかりました。

埼玉県においても戦時動員事務は県行政の重要な業務として位置づけられ、各郡役所に徴兵署を設置して、国の指令に基づき次々と兵員の召集を行いました。

本県からの召集兵は、近衛第1・第7師団に所属し、その多くは旅順攻略のために編成された乃木希典の指揮する第3軍に組み込まれました。



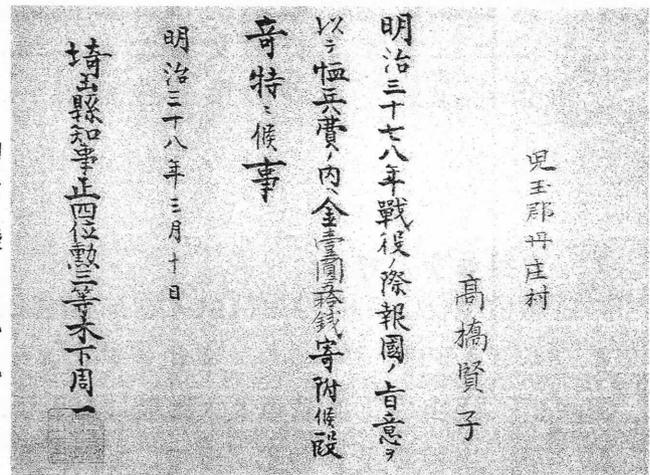
〔恤兵費寄附二付賞状〕

明治38年3月10日

【高橋(周)家1155-1】

恤兵(じゅっぺい)とは、戦地の兵士に物品または金銭を寄贈することで、戦時下においては恤兵費の名目で県を通じて陸軍に寄附されました。

各府県の知事はこうした寄附者について、「奇特」なこととして、賞状を贈っています。

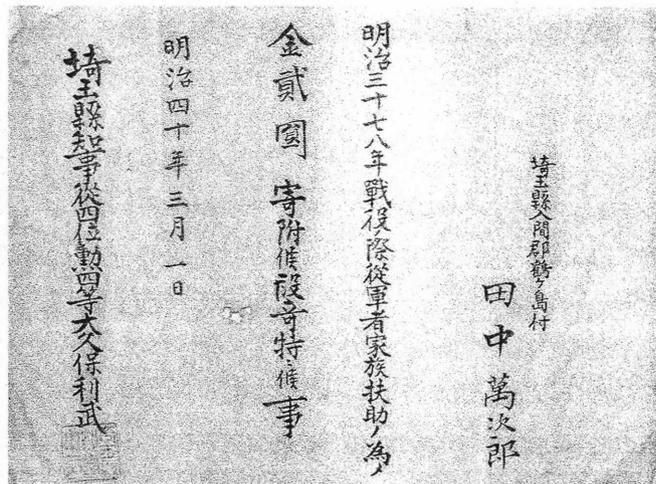


〔従軍者家族扶助二付賞状〕

明治40年3月1日

【田中家1313】

埼玉県から出征した22,254人のうち、戦病死者は2,053人、負傷者は578人にのぼりました。出征者の大半は各家庭の働き手であったので、生活に困窮する家が多く発生しました。戦後における遺家族の救済は、県行政の大きな課題でしたが、財政緊縮下における援助は不十分で、戦時下においては、様々な民間団体による相互扶助が行われました。これは、明治40年に埼玉県に金2円を寄附した際の知事からの賞状です。

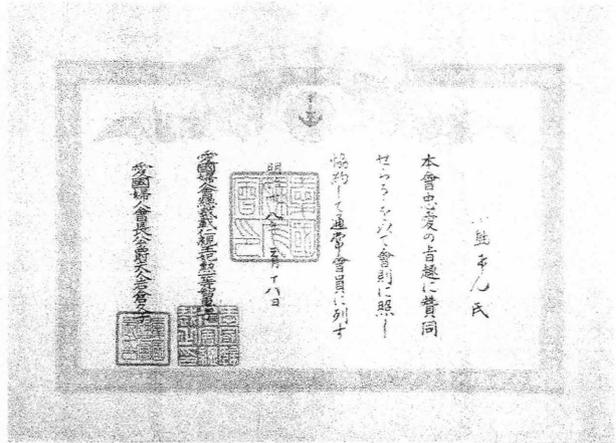


## 愛国婦人会の活動

愛国婦人会は、明治33年(1900)に北清事変(義和団の乱)の惨状を体験した奥村五百子(1845~1907)によって、翌34年に結成された婦人団体です。総裁に皇族を戴き、各県支部長には知事夫人、役員も地方官婦人が就任し、婦人の全国組織として最も古い歴史を持つものです。

愛国婦人会埼玉支部は、明治35年7月に発足しました。会の発展の契機となったのは設立後まもなく勃発した日露戦争で、

戦時下、軍人家族及び傷病兵の慰問、遺族の援助、金品の寄贈などの活動を積極的に行いました。とくに埼玉支部は、戦時の支援ばかりでなく戦後の39年3月の東北地方の大飢饉に際しては会員から義捐金を募るなどの活動をしました。その後、平時の際は、社会福祉団体の性格を備え活動しましたが、昭和17年(1942)2月に国防婦人会、大日本婦人連合会と合併して大日本婦人会となり、昭和20年の敗戦とともに解散しました。

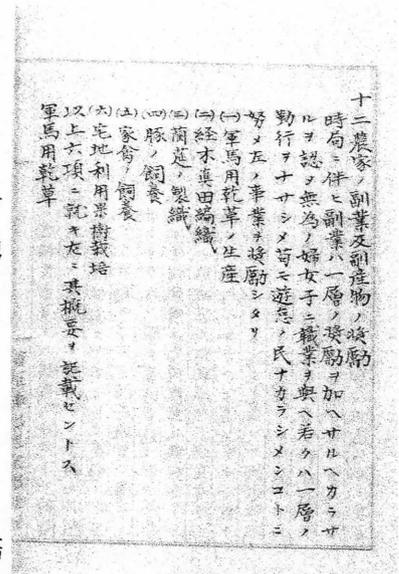


愛国婦人会会員証【小島(栄)790】

## 埼玉県北足立郡時局紀事本末下巻 農家ノ副業及副産物ノ奨励

明治38年2月22日  
【明2340-19】

戦時下、県や郡は、時間に余裕のある女性や若年者に対して勤労を求め、とくに軍馬用乾草の生産、豚の飼養、宅地利用による果樹栽培などに従事するよう奨励しました。

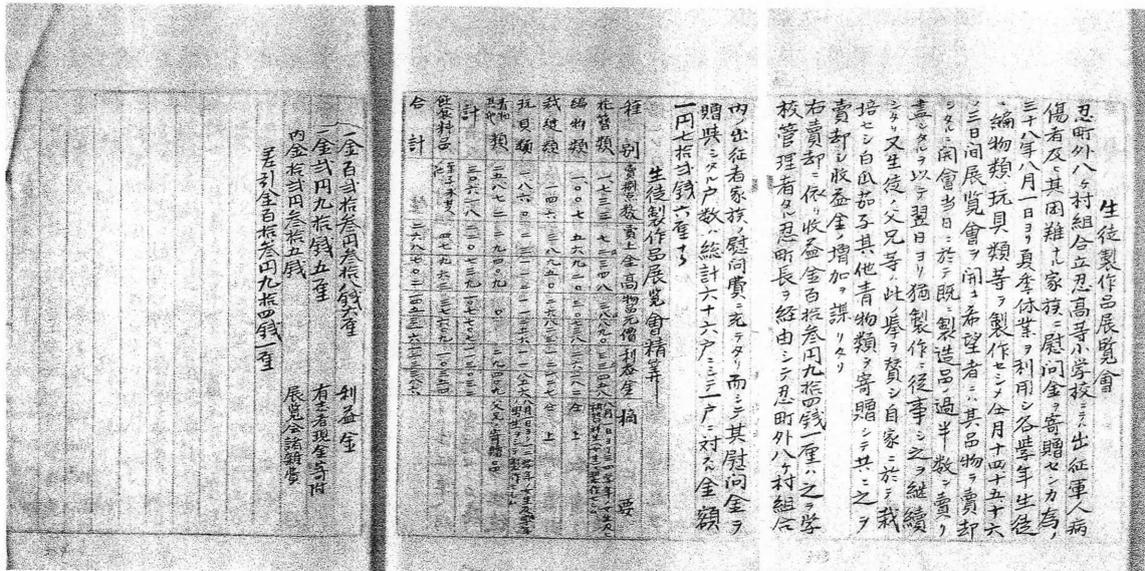


## 2 行政文書・刊行物にみる日露戦争

日露戦争が始まるとともに、国や県、町村が行うべき業務は、通常の業務のほかに徴兵や徴発(軍需物資を人民から強制的に集めること)、戦費の調達、従軍者留守家族・遺族救護、時局調査などといった戦争に対応する事務が加わり、複雑かつ多忙をきわめました。行政文書のなかには、それとともに倹約や副業従事の奨励、軍資献納に対する褒賞などを盛んに行って県民の啓発につとめました。

新聞も日本の勝利や戦局を大々的に伝えました。日本軍が苦戦の末に旅順での勝利を収めた際には、号外が発行されました。これと同様に、戦争に関する刊行物もこぞって出版されました。大人が目にするものばかりではなく、子供向けの読み物や、色鮮やかな絵葉書などが残されています。こうした資料からは、大人から子供まで、多くの人が戦争とその行く末に注目した様子がうかがえます。





北埼玉郡時局ニ関スル調書〔生徒製作品展覧會記録〕明治38年【明2340-20】

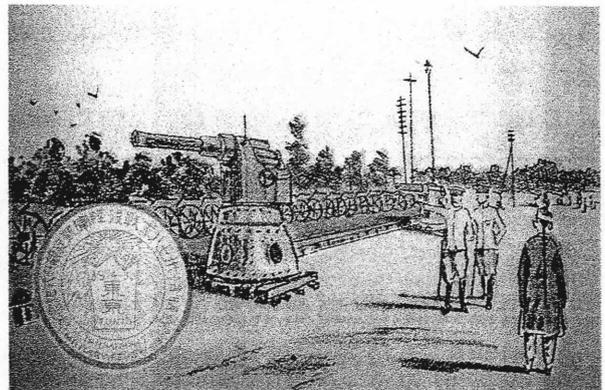
忍高等小学校では、夏季休業中に出征軍人傷病者とその家族に慰問金を寄付するため、生徒自身が作った編み物や玩具などの展覧会を開きました。展示品のほとんどが売却され、収益金113円94銭1厘は、忍町長から対象者に渡されました。

明治三十七八年戦役

陸軍凱旋観兵式記念絵葉書

明治39年4月30日  
【飯田氏収集307・315】

明治39年4月30日に東京の青山練兵場(明治神宮外苑)で開催された陸軍凱旋観兵式を記念した絵葉書です。

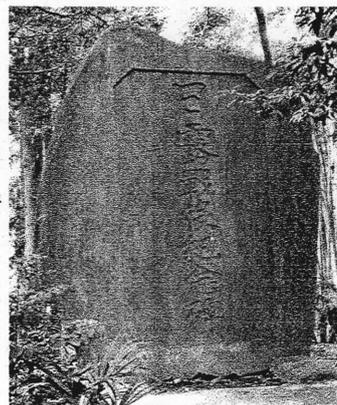


埼玉県北埼玉郡埼玉村日露戦役  
記念碑及忠魂碑建設ノ主旨

明治39年7月  
【湯本家4400】

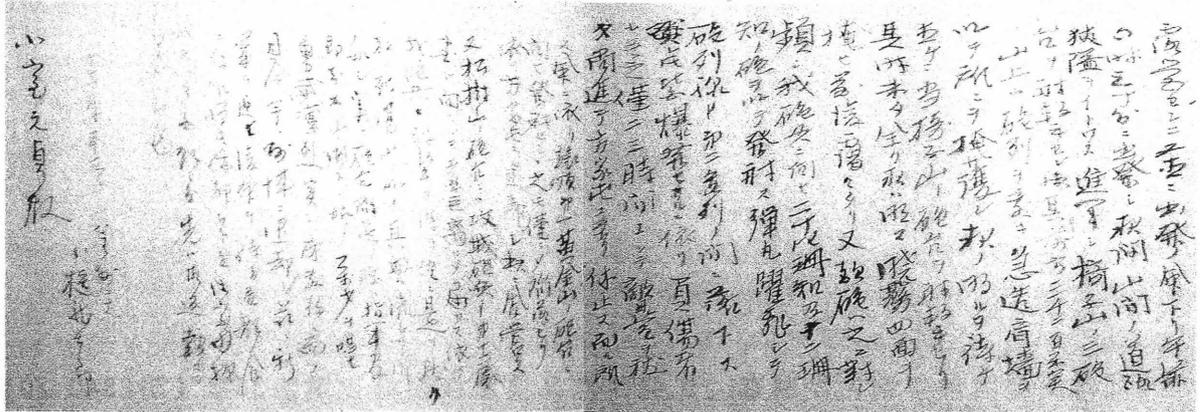
この写真は、行政文書【明2399-45】に図示された記念碑図にある埼玉神社境内の記念碑です。この石碑は、衆議院議員で明治30年(1897)に岐阜県知事をつとめた湯本義憲氏が発起人となって、39年7月に建設の主旨」が配布され、多くの賛同者を得て11月に建設されました。

なお、これらの石材は、付近の「若王子山ノ古墳」にあった巨石(緑泥片岩)を利用しています。



### 3 手紙・記録が語る日露戦争

ここでは、おもに日露戦争中の手紙や戦後にしたためられた手紙や記録を紹介します。埼玉県からは、多くの県民が出征しました。そのため戦地の軍人から、家族に宛てた手紙も少なくありません。文書館に残されている資料のなかには、戦局を知らせる戦地からの手紙を見ることができます。



〔旅順攻略戦二付書状〕 明治37年12月23日付【小室家1137】（部分）

旅順攻略戦に参加した小櫃龍太郎が、戦闘の状況を小室元貞に宛てた書状です。

「敵ノ死傷山ノ如ク、其血ハ流レテ川ノ如シ」ととあるように戦闘の激しさが記されています。日露戦争時、戦地からの手紙には、とくに検閲はなかったようで、同様の手紙や日記類が他にも多く残されています。

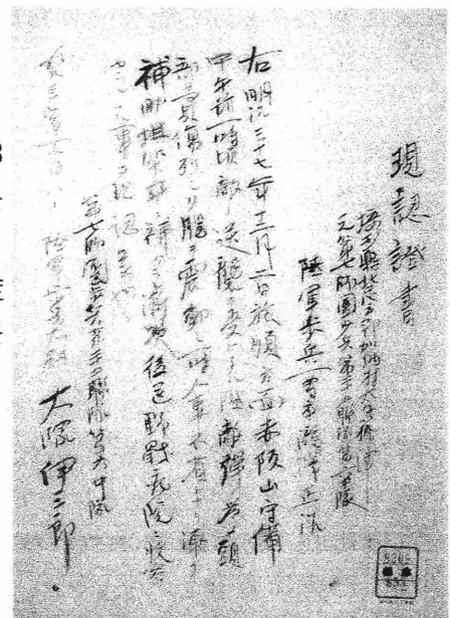
なお、受取人の小室元貞は、2度にわたり明覚村(ときがわ町)村長を務めており、日露戦争時には赤十字社による救護事業に尽力しました。

#### 現認証書(旅順戦二負傷証明下書)

明治39年11月8日【橋本明氏収集693】

北足立郡加納村(桶川市)出身の瀧澤正治は、明治37年12月2日の旅順の赤坂山守備で敵弾を受け、頭を負傷し野戦病院に収容されました。

この証書は、戦後になって頭痛、耳鳴りなどの後遺症がでたため、当時の上官に戦争による負傷であることを証明してもらうために書いた下書きです。



## 展 示 目 録

日露海陸戦地図	宇野家3342
[明治三十七八年戦役恤兵費寄附二付賞状]	高橋(周)家1155-1
日露戦役出征名簿(近衛歩兵第4連隊第4中隊)	橋本明氏収集529
[明治三十七八年役戦病死者数] (写真パネル)	明5001
[明治三十七八年役戦病死者遺族ノ状態] (写真パネル)	明5001
[明治三十七八年役負傷者ノ状況] (写真パネル)	明5001
愛国婦人会趣意書並規則等 明治34	白石家3461
愛国婦人会埼玉支部第1回総会式次第 明治40.10.13	小島(栄)782
愛国婦人会絵葉書 明治38.9.15	橋本明氏収集2255
愛国婦人会入会勧誘状 明治35	白石家3444
[従軍者家族扶助二付賞状] 明治40.3.1	田中家1313
軍人遺族救護議会議会員証 明治39	西川家3127
[日清・日露戦役従軍主要人名簿]	加藤家812
徴発馬匹代金受取証	小室家1318
軍馬売却二付通知	白石家3501
埼玉県北埼玉郡埼玉村日露戦役記念碑及忠魂碑建設ノ主旨	湯本家4400
前玉神社境内日露戦役記念碑図 明治39 (写真パネル)	明2399-45
忠魂碑 (写真パネル)	行田市埼玉神社
戦時時局中軍馬払下実施調 (写真パネル)	明2340-2
露西亜帝国ニ対シ不穩ノ語句使用ノ軍歌学校ノ唄歌ニ 使用セザル様郡長へ注意ノ件 明36 (写真パネル)	明3301-220
東京朝日新聞号外(旅順陥落敵軍降伏)	小林(茂)家6689
少年日露戦史 第1編開戦の巻 明治37.6.20	中川家3059・3060
日露戦役絵葉書 明治三十七八年戦役陸軍凱旋観兵式記念絵葉書	飯田氏収集305
海と空の博覧会綴(財団法人三笠保存会・日本産業協会)	A1208
北埼玉郡時局ニ関スル件 明治38 (写真パネル)	明2340-20
埼玉県北足立郡時局紀事本末 下巻 明治39 (写真パネル)	明2340-19
公文書類取扱方二付各郡長へ通牒 明治38 (写真パネル)	明2223-2
明治三十七八年戦役従軍記章	個人蔵
金鷄勲章(功五級)・年金証書	個人蔵
現認証書(旅順戦ニ負傷証明下書)	橋本明氏収集693
案内状(出征軍人凱旋祝賀式)	白石家3771
[父利昌旅順口沖ニテ戦死ニ付報知]	高橋(周)家4573
[旅順攻略戦ニ付書状]	小室家1137

※会期中、展示替えをします。

# 「埼玉から見た日露戦争」関係年表

年代			国際・国内のできごと	埼玉県のできごと
明治36年	1903	12月	3日 閣議、ロシアと開戦の際の対清・韓国政策を決定	
明治37年	1904	1月	25日 鉄道軍事供用令が公布される	
		2月	6日 日本、ロシアに国交断絶を通告する	5日 県下に1回目の軍事動員令が下る。38年5月まで計54回発令される  23日 日露戦争開戦により人間の交流が盛んになるため、種痘を励行させる
			8日 陸軍先遣部隊、仁川に上陸を開始。連合艦隊、旅順港外のロシア艦隊を攻撃	
			10日 日本、ロシアに宣戦を布告する	
		3月		3日 臨時県会において、日露戦争による30%減の予算更正審議・教育補助費に関する件を可決 15日 県立学校生徒出征応召軍人の子女に対する授業料の減免を定める
		4月	29日 下士兵卒家族救助令・施行細則が公布される	一 知事が国債応募・出征軍人救護など戦争協力を訓諭
		5月		3日 県、時局に際して防疫上嚴重なる警戒を加えるよう訓令 6日 陸海軍に召集された郡町村吏員・職員に応召前の俸給額との差額を支給することを決定
		6月	20日 満州軍総司令部が設置される	
		8月	10日 黄海海戦	
			30日 遼陽会戦	
		10月	9日 沙河会戦	
15日 バルチック艦隊出航				
11月		28日 通常県会開会、陸軍へ感謝状贈呈の件など可決		
12月	5日 日本軍、旅順203高地を占領	一 川越商業会議所、貴族院議長及び衆議院議長に戦時増税に関して請願		
明治38年	1905	1月	2日 日本軍、旅順要塞を陥落	
			25日 黒溝台会戦	
		3月	1日 奉天会戦	
		5月	27日 日本海海戦	一 北足立郡愛国婦人会が結成される。 一 県、日露戦争帰還者があるため、天然痘に対する嚴重な注意を促す
			9日 米大統領、日露両国に講和を勧告(10日に日本、12日にロシアが正式に受諾)	
		7月	一 日本軍、樺太作戦で樺太を占領する	
			一 応召下士兵卒家族救助内規ができる	
		9月	5日 日露講和条約(ポーツマス条約)が調印される	
5日 日比谷焼打事件	10日 憲政本党埼玉支部と埼玉同志倶楽部、大宮公園で講和反対大会を開催する。			
10月		24日 県、満韓地方より軍用馬匹が帰還するにあたり、病毒進入のおそれがあるため、その予防を告諭 27日 県、出征者帰郷戦役後の悪疫流行を防止すべきことを訓令		